

駿河台大学メディア情報学部 ゼミ論文（研究・制作）作成の手引き 2018

1. はじめに

2年間の専門ゼミナールで行った研究（ゼミ研究）の成果はゼミ論文としてまとめられます。ゼミ論文の提出はすべての専門ゼミナールで必須です。期日までに提出しないと必修卒業要件単位であるゼミナールⅣの単位が認定されないので注意して下さい。ゼミ研究には、文献研究や実証研究などとともに、単体として成立する作品を制作し、その技術的、表現的解説を行う作品研究があります。以下では、ゼミ研究のうち、文献研究や実証研究の成果をまとめたゼミ論文をゼミ論文（研究）、制作した作品およびその作品研究をゼミ論文（制作）と呼ぶことにします。

ゼミナールⅢ・Ⅳの担当教員が指導にあたるゼミ研究と「発展研究」（4年次配当2単位）は別の科目であり、ゼミ研究の成果をそのまま発展研究とすることは出来ません。

ゼミ論文の提出日時、提出場所等はつぎのとおりです。

- 題目届 提出：2018年6月22日（金）～6月28日（木）指導教員に提出
- ゼミ論文提出日時：2019年1月 ゼミ最終日の時間内に指導教員に提出
- 提出物：論文2部、ただし、ゼミ論文（制作）の場合には、制作された作品を含む（詳細は「3. ゼミ論文（制作）に関する事項」を参照）

※ 〆切以降の提出は認められません。

提出されたゼミ論文は、主査（ゼミナールⅣ担当教員）と1名の副査（メディア情報学部専任教員）によって審査が行われ、合議により成績を評価します。

2. ゼミ論文の本体

2.1. ゼミ論文の体裁

- (1)用紙はA4判、原則として横書きとし、色は白とします。フォントは原則として明朝体10.5ポイントとします。ただし、必要があれば指導教員と相談のうえで他の体裁を採用することも可とします。
- (2)提出物を作成するアプリケーションの種類は問いません。
- (3)ゼミ論文はステープルなどで綴じた後、必ず透明のクリアファイルに入れてください。

2.2. ゼミ論文の構成要素

以下に、ゼミ研究の主要な構成要素を掲げます。このうち「必須」と書かれたものは、ゼミ論文には必ず含め、「任意」と書かれたものは必要があれば付けてください。

(1) [必須] 表紙（「表紙の例」を参照）。

- ①「20〇〇年度 駿河台大学メディア情報学部 ゼミ論文」、②ゼミ研究の標題、③提出年月日、④学部・学科、⑤学籍番号、⑥氏名、⑦指導教員名

（表紙の例）

20〇〇年度 駿河台大学 メディア情報学部 ゼミ論文
映像メディアの歴史的変遷 ーアナログからデジタルへー
20〇〇年〇月〇日提出
メディア情報学部メディア情報学科 30〇〇999 駿河台 しゅんた 指導教員：〇〇〇〇

(2) [必須] 要旨（「要旨の例」を参照）

ゼミ研究の内容の要約を付けてください。余白は、上下 3.5cm、左右 3.0cmとし、1 ページの行数は 12~26 行程度、1 行の字数は 35 字（全角文字）程度とし、必ず、1 ページの範囲内（400 字以上 900 字以内）に収まるようにしてください。なお、ページの上部に、「ゼミ研究の標題」「学部・学科」「氏名」を記載してください。また、ページの下部に、担当教員名を「（指導教員：〇〇〇〇）」のように記載してください。

※この要旨は要旨集作成のため、デジタルデータを指導教員に提出してください。

- (3) [必須] 目次（「目次の例」を参照）
 (4) [任意] 図目次、表目次
 (5) [必須] 本文

ゼミ論文（研究）の場合、本文の構成については、①研究・作品制作の背景・動機・目的、②研究方法、③結果および結論、考察を含めるよう努め、適宜、章・節を設定してください。文字数は5,000字以上です。ゼミ論文（制作）では、ゼミ論文（研究）とは異なり、本文の文字数は2,000字以上です。詳しくは「3.2. ゼミ論文（制作）の体裁」を見てください。

本文に関しては、余白は、上下3.5cm、左右3.0cmとし、1ページの行数は35行程度、1行の字数は35字（全角文字）程度としてください。また、本文には必ず全ページにページ番号を付けてください。必要があれば指導教員と相談のうえで他の体裁を採用することも可とします。

章・節の見出しの例は、以下のとおりですので、参考にしてください。

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. はじめに | 1. はじめに |
| 2. デジタルメディアに関する現状認識 | 2. デジタルメディアに関する現状認識 |
| 2.1 ○○○○ | 認識 |
| 2.2 ○○○○ | A. ○○○○ |
| 2.2.1 ○○○○ | B. ○○○○ |
| 2.2.2 ○○○○ | (1) ○○○○ |
| 2.2.2.1 ○○○○ | (2) ○○○○ |
| | (a) ○○○○ |
| | |

- (6) [任意] 謝辞
 (7) [必須] 注（引用文献を含む）

注の書き方は、「3.3. 注（引用文献を含む）の書き方」に従ってください。

- (8) [任意] 付録

(要旨の例)

<p>要 旨</p> <p>映像メディアの歴史的変遷 ーアナログからデジタルへー</p> <p>メディア情報学部 ○○情報学科 駿河台しゅんた</p> <p>本研究では、アナログからデジタルへの変化が、情報メディア及び、それが社会に対して与えた影響を調査・分析することを目的とする。具体的には、……</p> <p>……を議論する必要がある。</p> <p>(指導教員：○○○○)</p>
--

注：要旨の余白、行数、文字数については、上の(2)の規定に従ってください。

(目次の例)

目次	
1. はじめに.	1
2. 情報メディアとその種類	
2.1 情報メディアとは.	3
2.2 情報メディアの種類.	10
2.3 情報メディアの多様性.	15
3. 情報メディアに関する従来の研究	
……	

注意事項：図表について

- (a) 図表に関しては、なるべく本文中の適当な個所に挿入してください。ただし、複数ページにわたるような大きな図表については、付録（本文の最後にまとめる形式）としてもかまいません。
- (b) 図表が B4 判、あるいは A3 判になった場合は、適宜、折りたたんでください。
- (c) 図表には、適切な見出しを付けて、通し番号を付けてください（たとえば、図 1、図 2、… など）。図表の番号は、章ごとに付けてもかまいません（たとえば図 2.1、図 3.2 など）。

(図表の例)

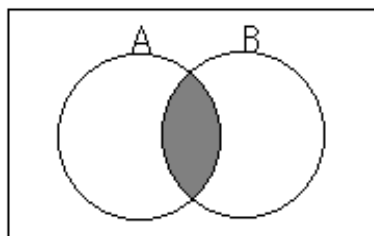


図2 検索語 A と B との論理積

表 3.1 国別での出版点数 (〇〇分野、1997 年)

	出版点数	%
日本	1,680	8.3
米国	13,520	66.5
...	...	
その他	2,342	11.5
合計	20,345	100.0

出典：『〇〇文化統計年鑑』 p.115 より作成

2.3. 注（引用文献を含む）の書き方

注では、本論に付随する考え方、経緯、関連情報などについて注釈したり、使用したデータ・情報・知識の典拠（引用文献など）を記述したりします。

特に典拠を明示することは、論文の責任を明確にする観点、および他者がそのゼミ研究を吟味し使用する観点から極めて重要であり、重い責任をともないます。先行研究や他者の意見あるいは他者が作成したデータ・情報を使用する場合には、逐一、本文の該当箇所に注番号を付け、本文の次に、その番号順に注を記述してください。なお、その具体的な例については①と②を参照してください。

また、他の方式を用いる場合を含め、詳しくは指導教員の指示に従ってください。

① 用と注番号の付け方の例

...この点に関して、B.C.Salton は次のように述べている。

“情報を客観的にとらえるのには限界がある。主観的な観点からの情報の再解釈がいまこそ求められているのである。これこそ、1980年代におけるひとつのパラダイム転換と呼ぶことができよう。”³⁾

この見解は多くの研究者によって支持された⁴⁾。その中でも、安澤⁵⁾は現象学的な観点から Salton の主張を議論し、いくつかの補足を加えている⁶⁾。

②注（引用文献を含む）の記述の例（①に対応）

-
- 3) Salton, B. C. Subjective information paradigm: a critical review. *Journal of Informatics*. 1990, vol.12, no.3, p.225-298.
 - 4) 戸田光昭. 情報理論の再構築—哲学的な観点から. 〇〇書房, 1992, 123p.
 - 5) 安澤秀一. 情報と現象学. 〇〇学会論文誌. vol.3, no.6, 1994, p.32-58.
 - 6) 特に、他者理解に関する議論は有益であり、たいへん興味深い。
 - 7)

また、同じ文献を繰り返し引用する場合は、次のように記述することができる。

- 8) 注3の文献, 引用は p.83.
- 9) 前掲3), p.83.

*** 典拠の記述の例を以下に示しますので、参考にしてください。**

A. 図書の場合

(1) 図書 1冊を参照する場合

著者名. 書名. 版表示. 出版者, 出版年, 総ページ数. (シリーズ名, 巻数, 号数)

- ・ 竹内啓, 藤野和建. 2項分布とポアソン分布. 東京大学出版会, 1981. 262p. (UP応用数学選書, 2)
- ・ 情報科学技術協会編. 新サーチャー入門: 基礎編. 第2版, 日外アソシエーツ, 1992, 295p.
- ・ Shao, Jun; Tu, Dongsheng. *The Jackknife and Bootstrap*. Springer, 1995, 515p.

(2) 図書の1部を参照する場合

著者名. 書名. 版表示. 出版者, 出版年, 参照ページ. (シリーズ名, 巻数, 号数)

- ・ マクルーハン, M. メディア論: 人間の拡張の諸相. 栗原裕, 河本仲聖訳. みすず書房, 1987, p.12-24.

(3) 図書の1つの章を参照する場合 (1:通常の場合)

著者名. “章のタイトル”. 書名. 版表示. 出版者, 出版年, 該当ページ. (シリーズ名, 巻数, 号数)

- ・ 浅井 晃. “7章 標本設計の基本問題”. 調査の技術. 日科技連, 1987, p.140-162.
- ・ Nielsen, Jakob. “4. Application of Hypertext”. *Multimedia and Hypertext: the Internet and Beyond*. Academic Press, 1995, p.67-129.

(4) 図書の1つの章を参照する場合 (2:章ごとに著者が異なる場合)

著者名. “章のタイトル”. 書名. 版表示. 編者. 出版者, 出版年, 該当ページ. (シリーズ名, 巻数, 号数)

- ・ロトカ, アルフレッド J. 倉田敬子訳. “8 科学の生産性を示す度数分布”. 情報学基本論文集 I. 上田修一編. 勁草書房, 1989. p.143-150.
- ・Harman, Donna. “14. Ranking algorithms”. Information Retrieval: Data Structures & Algorithms. Frake, William B.; Baeza-Yates, Ricardo. ed. Englewood Cliffs, PTR Prentice Hall, 1992, p.363-392.

B. 雑誌論文の場合

著者名. 論文タイトル. 雑誌名. 出版年, 巻数, 号数, 参照ページ.

- ・阪口哲男ほか. インターネット上での児童図書選択支援システム. 情報知識学会誌. 1996, Vol.6, No.1, p.11-20.
- ・Fischhoff, B., et al. Subjective expected utility: a model of decision-making. Journal of the American Society for Information Science. 1981, Vol.32, No.5, p.391-399.

C. 新聞記事の場合

(署名があれば署名者). 記事タイトル. 新聞名. 発行年月日 (朝刊・夕刊の区別), 該当ページ.

- ・小島朋之. 中国「反日」に統治の危機. 日本経済新聞. 2005.5.8(朝刊), p.22.
 - ・時代劇の鉦脈. 朝日新聞. 2004.10.29(朝刊), p.7.
- 但し、次のように”記事タイトル”方式の表記も可です。詳細については指導教員と相談してください。
- ・小島朋之. "中国「反日」に統治の危機". 日本経済新聞. 2005.5.8(朝刊), p.22.

D. 論文集に収録された論文の場合

上記の「A-(4)図書の1つの章を参照する場合(2:章ごとに著者が異なる場合)」に準ずる。また、継続して発行される論文集の場合、上記の「B.雑誌論文の場合」に従って記述することもできる。

E. 学会や研究大会の資料の場合

著者名. “発表タイトルまたは論文名”. 会議資料名. (編者名). 会議開催地, 開催期間. 主催機関, 出版者, 出版年, 参照ページ.

- ・美添泰人; 荒木万寿夫. “消費関数の安定性について”. 第64回日本統計学会講演報告集. 千葉, 1996-09-01/03. 日本統計学会, 1996, p.319-320.
- ・Deegan, Marilyn. “Computer-based learning in British higher education: a review of some projects and issues”. 47th FID Conference and Congress. Omiya, Japan, 1994-10-15/20. International Federation for Information and Documentation, 1994, p.594-598.

F. 学位論文等の場合

著者名. 論文タイトル. 機関所在地, 大学名, 学位授与年, 総ページ数. 学位論文の種類.

- ・文化太郎. 情報メディアの歴史的変遷: 近世ヨーロッパを中心に. 埼玉, 駿河台大学メディア情報学部, 100p. 卒業論文.

G. 私信やインタビューの場合

著者名. タイトル. 年月. 私信／インタビューなどの種類.

- ・安澤秀一. 1997年7月. インタビューによる.

H. 記録／史料の場合

資料名. 所蔵者名. 資料群名, 資料番号 (編集者名. 資料目録名. 出版者名, 出版年)

- ・寅年宗門人別改帳. 飯能市郷土館所蔵. 武蔵国高麗郡飯能村名主小沢家文書, 資料番号 A-32 (飯能市教育委員会. 武蔵国高麗郡飯能村名主小沢家文書目録. 1980)

*ただし、図書として刊行された資料集などから引用している場合には、上の「A.図書の場合」に準ずる。

I. インターネット上の情報の場合

数年で情報自体が存在しなくなることがしばしばあるので、典拠として使うには十分な注意が必要である。

(1) WWW 上のホームページ

著者名. “ウェブページの題名”. ウェブサイトの名称. 更新日付. 入手先, (入手日付).

- ・学術情報センター. “文部省学術情報センター沿革”. 学術情報センター. 1996-11-1. <http://www.nacsis.ac.jp/brief/history-j.html>, (参照 1997-3-21).

(2) WWW 上の雑誌論文等：アクセス先とアクセスした日付を付記する。

- ・藤田岳久. 海外利用者のための日本語 OPAC. デジタル図書館. 1996, No.6, p.11-15. <http://www.dl.ulis.ac.jp/Dljournal/No6/take.html>, (参照 2005-3-1).

2.4. ゼミ論文作成のための参考文献

木下是雄. 理科系の作文技術. 東京, 中央公論社, 1981. 244p. (中公新書 624)

木下是雄. レポートの組み立て方. 東京, 筑摩書房, 1990. 234p. (ちくまライブラリー 36)

戸田山和久. 論文の教室：レポートから卒論まで. 東京, NHKブックス, 2002. 297p.

中村幸雄. 論文と抄録の書き方. 2版. 東京, 情報科学技術協会. 1990. 127p. (INFOSTA シリーズ)

その他、文庫あるいは新書として手軽なものとしては、

澤田昭夫. 論文の書き方. 東京, 講談社, 1997. 266p. (講談社学術文庫 153)

杉原四郎ほか. 研究レポートのすすめ. 東京, 有斐閣, 1979. 210p. (有斐閣新書 C55)

樺島忠夫. 文章構成法. 東京, 講談社, 1980. 193p. (講談社現代新書 587)

末武国弘. 科学論文をどう書くか. 東京, 講談社, 1981. 250p. (講談社ブルーバックス 454)

浅田彰ほか. 科学的方法とは何か. 東京, 中央公論社, 1986. 213p. (中公新書)

上田尚一. 統計グラフの賢い見方・作り方. 東京, 講談社, 1988. 214p. (講談社ブルーバックス) などがあります。

3. ゼミ論文（制作）に関する事項

3.1. 要件

- (1) 作品と作品についての解説文をあわせたものがゼミ論文（制作）です。作品だけではゼミ論文（制作）として認定されません。したがって、作品制作を行う場合は、作品と解説論文の両方を提出することが必要です。
- (2) 作品とは映像、音響、グラフィックス、WEB など創作的技法によって構築された単体で成立する、思想・心情を表現したものです。したがって研究の過程で仮説や理論を実証するために作成された制作物は独立した作品とは見なさず、論文の付帯資料としてゼミ論文（研究）として扱われます。
- (3) 作品自体の形式、体裁は問いませんが、発表、提出する際には特殊な再生装置、OS、アプリケーション（プラグイン）等に依存しない「標準的な」再生環境及び媒体であることが推奨されます。ただし、作品表現や研究内容によって特殊な再生環境が必要な場合は、指導教員の許可を得て仕様に含めることが可能です。その場合は 3.2.の体裁に合わせた「サブセット」を作成して提出することが必要ですので注意してください。
- (4) 作品の提出の詳細に関しては必ず指導教員とよく相談をしてください。

3.2. ゼミ論文（制作）の体裁

- (1) 解説文の形式についてはゼミ研究（論文系）の形式に準じます。この手引きの 2.1 から 2.4 を参照してください。文字数は 2,000 字以上です。
- (2) 映像・音響、デジタルデザイン作品の場合、提出は以下の規格を満たすものとします。

- ・ CD-R もしくは DVD-R
- ・ 12cm CD 規格のケース（142×124mm）または、トールサイズ（190×135mm）のケースに収納

※ただし、指導教員によっては、他の規格や媒体による提出も可とします。

- ・ CD-R もしくは DVD-R で提出の際は下記の要領で記載すること。

CD/DVD-R には油性ペンもしくは盤面プリントで、ケースにはラベルで以下を記載

- ① 「20〇〇年度 駿河台大学メディア情報学部 ゼミ研究」
- ② ゼミ研究の標題
- ③ 映像・音響作品の場合 再生時間/デジタルデザイン作品の場合 再生方式
- ④ 提出年月日
- ⑤ 学部・学科
- ⑥ 学籍番号
- ⑦ 氏名
- ⑧ 指導教員名

3.3. 共同作品の扱い

映像作品や規模の大きなコンテンツ制作を複数人で行う「共同作品」の扱いは次のとおりです。

- (1)他のメンバーをもって代替できない主要な役務を担っている場合のみ、ゼミ論文(制作)として提出できます。その関与の度合いがゼミ研究に値するかどうかはゼミⅣの担当教員が認定しますので、共同でゼミ研究に取り組む場合は、全主要メンバーと当該科目の担当教員による十分な打ち合わせと確認を行ってから、具体的制作をしてください。
- (2)作品を共同で提出した場合でも、解説文は各自の役務によって内容が異なるため、それぞれが独自に作成する必要があります。類似した解説文では(1)に規定された「代替できない主要な役務」とは認められないので注意が必要です。
- (3)共同作品の場合でも、ゼミ論文(制作)の提出は個人単位で行ってください。

以 上